

AOTS創立60周年を迎えて ～原点回帰から新たな時代へ～

AOTSは2019年8月、創立60周年を迎えました。記念行事として2019年7月31日～8月2日の3日間、国際シンポジウム及び記念式典・レセプションを実施し、併せて第10回AOTS同窓会代表者会議を開催いたしました。

国際シンポジウム

「これからの日本人と外国人の共創・共生のかたち」(2019年7月31日 於:イイノホール)

「共に生き、共に成長する」、「Live in Harmony, Grow Together」というコンセプトをもって創立の志を新たにし、次世代に向けたAOTSのとるべき方向性および今後の国際協力の可能性を考えるシンポジウムを開催しました。当日は400名を超える方にご参加いただきました。

人や技術の流れは、「日本から海外へ」という一方向的なものではなく、海外で起こったイノベーションを日本が取り入れるという双方向的なものへと変化しています。また、近年、海外からの外国人材の受け入れが活発化しており、日本で働く外国人の数は、年々増加しています。

このような状況下で、どのように手を取り合って新しい世界を築いていくのか、講演とパネルディスカッションを通し、日本人と外国人が「共に生き、共に成長する」世界のあり方を探りました。



プログラム

基調講演：「日本人と外国人の共創・共生 — 産業界の観点から」

日本機械工業連合会 会長 大宮英明氏
(三菱重工業株式会社 相談役、前会長)

講演：「アジア産業発展に向けたデンソーの海外製造人材育成の取り組み」

株式会社デンソー 執行職 山内豊氏

講演：「中小企業だからこそできる、一人一人に寄り添った人材育成」

株式会社ヒロキ 代表取締役 権田浩幸氏

講演：「Application of AOTS Learnings:
In keeping up with the challenge of constant change in manufacturing」

Mr. Edilberto A. Gallor
Senior Executive Vice President, RGC group of Companies, the Philippines

パネルディスカッション：「共創・共生社会を生きる未来世代を育てる産業人材育成のあり方」

モデレーター：JICA 研究所 所長 大野泉氏

パネリスト：

- ・株式会社デンソー 執行職 山内豊氏
- ・株式会社ヒロキ 代表取締役 権田浩幸氏
- ・Mr. Edilberto A. Gallor, Senior Executive Vice President, RGC group of Companies, the Philippines
- ・株式会社島根情報処理センター Mr. Ermin Gerald D' Cruz
(松江市インド IT 人材受入・インターンシップ元参加者)



式典

国際シンポジウムに続き、イイノホールにて記念式典を開催しました。長谷川浩司AOTS会長(当時)による挨拶に始まり、ご来賓の関芳弘経済産業副大臣(当時)、原田義昭環境大臣(当時)、アルゼンチン特命全権大使アラン・ペロー閣下よりご祝辞を頂きました。またAOTS事業への多大なるご協力を頂いた20名の功労者の皆様に感謝状を贈呈しました。あわせてAOTSの運営および研修等事業実施にご協力頂き、感謝状贈呈の対象となった38団体を紹介させて頂きました。

レセプション

場所を第一ホテル東京に移し、記念レセプションを開催しました。長谷川浩司AOTS会長(当時)の挨拶に続き、ご来賓の経済産業省貿易経済協力局長保坂伸氏にご祝辞を頂きました。その後会場では、衆議院議員青山周平氏による乾杯ご挨拶を経て懇談へと移り、多くの皆様より頂戴した祝電を披露させて頂きました。また、AOTS同窓会を代表してバハ・ザグルール氏(エジプト同窓会会長)よりご挨拶を頂きました。AOTS創立60周年を祝う声や同窓会メンバーとの久々の再会を喜ぶ声の中、レセプションは盛況のうちに終了しました。





AOTS同窓会とは

AOTS同窓会は、日本で行われた研修の参加者が、帰国後に「AOTS研修」という共通体験をもとに結束し、世界各地で自主的に組織している非営利団体です。AOTS同窓会は2020年7月現在、世界44カ国・地域73カ所に結成されており、人材育成を通じた自国の経済産業の発展と地域社会への貢献とともに、日本や諸外国との友好関係の増進に努めています。

同窓会メンバーの中には、各国の政界、経済界で主要な地位を占める要人も多く、それらネットワークを有する同窓会は、AOTSが日本の産業界のグローバル化を支援していく上でも重要な役割を果たしています。

単に旧交を温める活動にとどまらず独自の社会貢献活動を続けるAOTS同窓会は内外において非常に高く評価されており、AOTSの人材育成の成果の証であるとともに、一番の財産でもあります。

世界各国のAOTS同窓会と同窓会地域連合



同窓会の主な活動

- 1 会員の親睦活動**
 - レクリエーション活動
- 2 同窓会組織の運営**
 - 会員名簿整備
 - 機関誌発行
 - AOTS海外事務所・日本在外公館等との協力
- 3 文化・社会活動**
 - 日本語教室
 - 来日前オリエンテーション
 - 各種社会奉仕活動
- 4 人材育成・産業振興活動**
 - AOTSとの協力事業
 - 各種機関との人材育成協力推進 (研修生募集・推薦、日本人講師派遣による巡回セミナー)
- 5 国際協力活動**
 - 同窓会間研修生・専門家交換(WNFプログラム)
 - 同窓会地域連合会議
 - 同窓会代表者会議参加

第10回AOTS同窓会代表者会議

2019年8月1日、2日に、AOTS東京研修センターにおいて、第10回AOTS同窓会代表者会議(以下、会議)を開催しました。同窓会同士の連携を深め、また、AOTSと同窓会とのface to faceの相互交流を促進することによって、AOTSと同窓会が協力して開発途上諸国の産業人材育成に資する活動を企画実行するために、原則として4~5年毎に実施してきた国際会議です。今回の会議には、41の国・地域から65同窓会、366名(オブザーバー含む)が参加しました。

会議日程

8月1日	午前	開会式 開会総会
	午後	分科会
8月2日	午前	地域連合会
	午後	閉会総会 閉会式
	夕方	歓送会

8月1日午前の開会式では 同窓会代表者会議開催実績

AOTS長谷川浩司会長(当時)の挨拶に続き経済産業省技術・人材協力課長紺野貴史氏、元法務大臣杉浦正健氏、同窓会を代表してスリランカ同窓会元会長のダヤシリ・ワルナクラスーリヤ氏よりご挨拶を頂きました。



	実施年	開催地	参加同窓会数	参加総数
第1回	1986年	東京	20カ国28同窓会	33名
第2回	1989年	横浜	25カ国43同窓会	103名
第3回	1992年	タイ・バンコク	31カ国51同窓会	132名
第4回	1994年	大阪	33カ国53同窓会	171名
第5回	1997年	愛知	40カ国64同窓会	205名
第6回	2002年	スリランカ・コロンボ	37カ国61同窓会	136名
第7回	2006年	インド・ムンバイ	40カ国62同窓会	170名
第8回	2009年	横浜	41カ国68同窓会	211名
第9回	2014年	東京	38カ国60同窓会	237名
第10回	2019年	東京	41カ国65同窓会	366名

分科会テーマ

A	同窓会運営・活動の改善
B	同窓会間の協力関係強化
C	AOTS既存事業における今後の協力強化 (日本語教育関連等に関する支援、協力事業)
D	AOTSと同窓会による新たな共同事業

8月1日午後には、各国同窓会メンバーは4つの分科会に分かれ、AOTSと同窓会との協力事業について議論や提言を行いました。

8月2日の午前は6つの地域連合会に分かれて会議を行い、活発な議論が行われ、午後には、分科会・地域連合会議の報告と決議文の採択が行われ、閉会となりました。



同窓会代表者11名が世耕経済産業大臣(当時)を表敬訪問しました。(2019年7月31日)

会議参加者全員が一同に会した閉会総会では、東京宣言2019が採択されました。

東京宣言2019

- ① AOTS同窓会は、60年にわたるAOTSの産業人材育成協力事業が世界の産業発展に果たした役割と多大な成果を改めて確認し、事業活動をご支援いただいた日本および各国の政府、産業界、国民に対し深い敬意と心からの感謝を表明する。そして、今後も新しい時代の要請に応えながら事業を永続的に維持・発展することを切望する。
- ② これまでAOTSおよびAOTS同窓会は人材育成を通して、“共に生き、共に成長する”という思想に基づく社会を実現する上で重要な役割を果たしてきた。AOTS60周年の記念の年にあたり、我々はこれまで果たしてきた役割とその実績を振り返り、あらためてこの思想の価値を評価したい。今回の会議では、特に次世代へ繋ぐということ意識して、今後AOTSとAOTS同窓会がそれぞれの活動を維持発展させていくためにどういった責務を果たしていくべきかについて議論を深めた。

- ③ 今回の会議において、具体的な議論の結論は以下の通りである。

同窓会運営強化および次世代育成をテーマとしたグループでの議論の結論としては、今後も各同窓会は同窓会間における情報および経験共有を進め、同窓会運営の自主的強化に努める。また、次世代育成のために日本または海外にて同窓会若手メンバーのリーダーシップ開発や、同窓会シニアメンバーのメンターシップ強化のための研修実施について協議していく。

同窓会間の連携強化をテーマにしたグループでの議論の結論としては、AOTS元研修生同士がさらにつながりあい、AOTSとAOTS同窓会が関係強化することを目的として、AOTS同窓会はAOTSに対し、モバイル利用が可能なネットワーキングプラットフォーム開発の継続、改良を要請する。

既存事業におけるAOTS同窓会とAOTSとの協力をテーマにしたグループでの議論の結論としては、日本語教育に対する需要増加を受けて、教育の質や効果の向上を図るために、オンラインやEラーニング等を利用したプログラム、カリキュラムの標準化、指導者向けの定期的な研修や同窓会を通じたAOTS日本語教育の認証などをAOTSと協力して進めていく。

新規事業におけるAOTS同窓会とAOTSとの協力をテーマにしたグループでの議論の結論としては、AOTS同窓会とAOTSは今後Knowledge Sharing Platformの構築を進める、また、共同事業やスタートアップビジネス構築に向けて、研修センター、旅行支援サービス、人材紹介、デジタルマーケティング等の内容について具体的なビジネスモデルの提案を今後行っていく。



特集 3

アフリカ向け人材育成



巡回セミナー ザンビア・タンザニアにおいて実施

各国のAOTS同窓会が主体的に行う現地人材育成活動を積極的に支援するため、AOTSでは日本から講師を派遣し、複数の同窓会を巡回して現地研修を行う「巡回セミナー」を実施しています。

2019年8月に「第7回アフリカ開発会議(TICAD7)」が実施されることから、AOTSのアフリカに対する人材育成の強化と、現地同窓会の活動支援を目的とし、これまで事業実績が少なかったザンビアとタンザニアでの開催を計画しました。株式会社リーム中産連代表取締役社長村田識行氏を講師として派遣し、「リーダーシップ育成」をテーマとしたワークショップ形式のセミナーを、6月6日、7日、ザンビアの首都ルサカにおいて、さらに、6月10日、11日、タンザニアの首都ダルエスサラームにおいて2日間ずつ開催し、各コースとも40人近くの参加者を得て成功裡に収めることができました。

村田講師は、AOTS登録講師として長い間リーダーシップやコミュニケーションスキルに関連した講義を行ってこられた一方で、タンザニアにおいて長年5Sやカイゼンを指導したご経験をお持ちです。アフリカにおける豊富な経験を活かした指導により、参加者は今回のセミナーを通して、各職場での組織の活性化や生産性の向上には管理者のリーダーシップが必須であり、それがあって初めて5S、カイゼン等の管理も定着するということを理解したようです。

両国のセミナーとも、開講時や修了時には現地日本国大使館や現地政府機関からの来賓よりご挨拶を頂き、同窓会にとっても各方面に活動をアピールする貴重な機会になりました。



VOICE: 日本式経営セミナーを振り返って

ABEイニシアティブ留学制度のプログラム参加者向けにAOTSが開催した5日間のセミナー「日本の伝統的経営観とファミリービジネス」(2018年2月開催)に参加した立命館大学院経済研究科に在籍中のフェイスル・モハメッド・ハシさん(ソマリア・Ministry of Finance勤務)、ダマス・エクリッド・ヌシ・メツアケさん(カメルーン・Ministry of Economy, Planning and Regional Development勤務)に2019年9月、インタビューを実施しセミナーの感想を伺いました。

ハシさん: 日本製品はアフリカのマーケットでも見かけますが、今回学んだような日本の管理手法については知られていません。セミナーは本当に有益な内容で、短い期間ではありましたが、日本企業の団結力やマネジメントの心を理解できました。特に、5Sの具体的な取り組み事例が印象深く、会社を挙げた管理の姿勢が良い製品を生み出すブランド力につながり、会社や製品への信頼につながると思います。

ヌシさん: AOTSのセミナーでは実際に企業の中に入って、大企業も中小企業もみることができ、経営者と話ができるというのが本当によい経験でした。より実践的な内容で、とても貴重な機会だと思いました。企業訪問で印象に残ったのは、ある企業で聞いた「利益よりマネジメントを重んじることで、これにより利益は後からついてくる」といった言葉や、経営者層とワーカーが共に同じゴールを目指す姿勢です。Kaizen is a way of living, habitという話も印象に残っています。とにかくたくさん学ぶことがあり、しかも誰もが学ぶべき内容です。同じセミナーに参加したアフリカの参加者は、みな同じような感想をもったことでしょう。



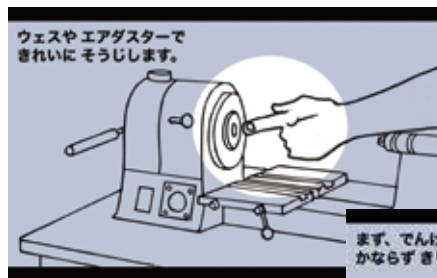
近年、海外からの外国人材の受け入れが活発化しており、研修現場や就労現場で役立つ日本語習得がより一層求められるようになってきました。AOTSでは、日本語学習の初級レベルから、産業人材に必要な専門語彙の学習や指導員と円滑なコミュニケーションをとるための会話の学習など、技術習得を円滑に進めるための日本語教材の開発に取り組んでいます。

「産業人材のための日本語活動集」の開発と日本語研修での利用開始

「使い方について質問する」「困っていることを相談する」「問題発生を報告する」といった幅広い業種や職種の技術研修生や外国人従業員に必要な日本語コミュニケーション能力を養成するための活動集を開発しています。「分からないことをそのままにしない」「遅刻しそうな時は前もって連絡する」等の社会人に求められる行動能力も養成できる教材となっています。2019年度よりAOTS内での日本語研修で一部利用を開始し、受講者から「現場ですぐに役立つ」とのコメントもあり、好評を得ています。今後は、AOTS以外の教育機関でも利用して頂くために教材の出版を計画しています。



「使い方について質問する」の教材



「作業方法の指示や説明を聞く」の動画

外国人技能実習生向け日本語教材の開発

外国人技能実習機構受託事業

「令和元年度技能実習生の技能習得に資する日本語教育教材の開発事業」

AOTSではこれまで主に「研修生」に対する日本語教育に携わってきましたが、今年度は外国人技能実習機構からの受託事業として、「技能実習生」に対する日本語教材の開発事業を実施しました。「機械・金属関係」および「食品製造関係」の2つの職種を対象とし、各界の有識者から構成される検討会や、監理団体・実習実施企業・実習生本人に対する調査を通して、ニーズ分析やコンテンツの検討を行い、実習現場で使用される専門用語や指導員との会話を学習できる教材を開発しました。開発した教材の一部は、外国人技能実習機構のHP (<https://www.otit.go.jp/>) で無料公開されています。2020年度以降、スマートフォン等で受講できるアプリケーションの形で公開される予定です。

